

第三編 近代編

1 明治十七年芦屋・三条・津知村誌

菟原郡深江組戸長

久保平兵衛謹誌

明治十七年四月

【撰津国菟原郡芦屋村誌】 芦屋市教育委員会蔵

○明治十七年(一八八四)

(表紙)

撰津国 芦屋村誌

況 例

一 本誌ハ昨明治十六年一月布達丁第壹号及ヒ全第六号ニ照準シテ調査スルモノナリト雖モ故ラ茲ニ沿革、疆域、地質、鉄道、墓地、道路、電線、森林、橋梁、河渠、堤塘、及ヒ民業等ノ別項ヲ掲ケ以テ尚キ精密ナル実況ノ考抛ラシテ満足タラシム

沿革

古時芦屋庄ニ属ス天正年中豊臣氏領代官村上孫右衛門ノ支配タリ元和元年豊臣氏亡ヒ徳川氏之ヲ戸田氏鉄ニ賜フ寛永十二年青山大藏代テ領ス正徳元年ヨリ松平遠江守ノ領スル所トナル明和六年徳川氏此地ヲ収メ其直轄ノ地トナス世々大阪代官ノ管轄スル所タリ徳川氏ノ大政ヲ奉還スル明治元年二月兵庫裁判所ヲ設ケ之ヲ收

撰津国

菟原郡

芦屋村誌

△此年五月本県ヲ神戸港ニ置キ之カ管地ト為ス同四年

本村拳テ本県ノ管轄トナル同五年本県区画第拾七区ニ属シ全年之ヲ改メテ第六区トナス全十二年一月区画ヲ廢シ更ニ菟原郡役所ヲ住吉村ニ置キ之カ所轄トナリ后十三年十二月之ヲ武庫郡西宮町ニ移置セラルル則チ本村ハ現今之レカ管轄タリ

疆 域

東ハ打出村字大溝川ヲ以テ界シ西ハ深江、津知、及ヒ三条村ノ耕地ニ接シ北ハ六甲山ノ頂嶺ヲ限リ南ハ海岸ヲ以テ限ル

幅 員

東西四百八拾間南北五千四百四拾間周囲壹万一千八百四拾間積面貳百七拾壹万壹千貳百坪

地種總計

官有地
第壹種 老筆 反別老町三反老畝九歩
第貳種 六筆 反別老反六畝四歩
總計七筆反別老町四反七畝拾三歩
民有地
第老種 老千八百五拾六筆 反別三百四拾町三反三畝

三歩

第貳種 三拾四筆 反別貳町六反七畝三歩

總計老千八百九拾筆 反別三百四拾三町六歩

飛 地

杖東賀志比 ○笠ヶ塚官林ノ南ニ方ル中間ニアリ田地タリ
間谷計武 ○笠ヶ塚官林ノ東南ニ方ル家屋及ヒ畑地タリ
津谷多 ○笠ヶ塚官林ノ南方ニアリ家屋及ヒ畑地タリ
藤ヶ谷多 ○津谷ノ西南ニ方ル畑地タリ
山坂佐加 ○笠ヶ塚官林ノ南方ニアリ畑地タリ
瓦器加和 ○城山官林ヲ隔テ山坂ノ西隣ニ方ル田地タリ
北溝美首 ○瓦器ノ西北ニアリ畑地タリ
冠無利 ○城山官林ヲ隔テ北溝ノ西南ニアリ畑地タリ
山ノ下多 ○藤ヶ谷ノ南方ニアリ家屋散在其他田圃タリ
地王堂智實 ○山ノ下ノ西北ニアリ家屋及ヒ田圃タリ
角石以加度 ○杖東ノ直北ニ方ル家屋及ヒ畑地タリ

大僧寺宇 ○瓦器ノ西南方ニアリ家屋及ヒ畑地タリ
法泉寺武士 ○大僧ノ西方ニアリ畑地タリ
西ノ坊保字能 ○冠ノ直南ニ方ル家屋及ヒ畑地タリ
芝ノ掛志能 ○法泉寺ノ東方ニアリ家屋及ヒ田地タリ
開守母理 ○芝ノ掛ノ東南ニ方ル畑地タリ
松ノ内宇知 ○芦屋川ヲ隔テ開守ノ東隣ニ方ル家屋及
ヒ田地タリ
舟戸登 ○松ノ内ノ東方ニアリ田地タリ
九ノ坪都保 ○舟戸ノ東方ニアリ田地タリ
寺田陀羅 ○西ノ坊ノ東方ニアリ田地タリ
西ノ口久智 ○法泉寺ノ直南ニアリ田地タリ
北ノ口久智 ○芝ノ掛ノ直南ニアリ田地タリ
古屋敷志氣 ○開守ノ西南ニ方ル家屋及ヒ田地タリ
岸ノ下志多 ○西ノ口ノ直南ニ方ル田地タリ
南ノ口美奈美 ○北ノ口ノ直南ニアリ田地タリ
狩屋夜 ○古屋敷ノ南方ニアリ田地タリ
中ノ内宇知 ○松ノ内ノ直南方ニアリ家屋及ヒ田地タ
リ

井ノ尻志利 ○中ノ内ノ直東方ニアリ田地タリ
山角加夜 ○井ノ尻ノ東方ニアリ田地タリ
芦原和志 ○山角ノ東方ニアリ田地タリ
走り田天武 ○芦原ノ南方ニアリ家屋及ヒ田地タリ
辰巳美都 ○走り田ノ南ニ方ル家屋及ヒ田地タリ
田中多奈 ○走り田ノ西北ニ方ル田地タリ
徳塚津加 ○田中ノ直西方ニアリ田地タリ
平足阿士 ○徳塚ノ直西方ニアリ田地タリ
中程保度 ○芦屋川ヲ隔テ平足ノ西隣ニアリ田地タリ
前田陀羅 ○中程ノ直西方ニアリ田地タリ
傍志保宇 ○前田ノ直西方ニアリ田地タリ
ケカ、子賀 ○辰巳ノ南方ニアリ田地タリ
八田陀羅 ○ケカ、子ノ東南ニ方ル田地タリ
大榎麻須 ○八田及ヒケカ、子ノ西ニ方ル畑地タリ
申新田武天無 ○大榎ノ西ニ方ル家屋及ヒ畑地タリ
権ノ老布計 ○芦屋川ヲ隔テ申新田ノ西隣ニ方ル田地
タリ
平田比羅 ○権ノ老ノ直南ニ方ル畑地タリ

樋ノ口久智 ○申新田及ヒ平田ノ西ニ方ル畑地タリ
古新田天無 ○大榎ノ南ニ方ル田地タリ
辰新田武天無 ○古新田ノ西ニ方ル家屋タリ
伊勢講田天武 ○古新田ノ南ニ方ル田地タリ
西新田無天武 ○伊勢講田辰新田及ヒ樋ノ口ノ西隣ニア
リ畑地タリ
六甲許宇 ○本村ノ全キ北部ヲ位メタル山岳タリ
笠ヶ塚津加 ○本村中央ヨリ北ニ方ル官林タリ
城山夜麻 ○同上
字地総計五拾貳個
但名称ノ変更ハ首テ無之シト雖モ現時ノ字数ヲ去ル
明治八年以前ニ对照スレハ其減省シタルコト七個
タリ之レ全ク八年改租ノ際字地ヲシテ合併セシメ
タル個所アルニ因ル

芦屋小学校へ西北四町
四隣村元標へ
東 打出村へ拾八町
西 三奈村へ六町 深江村へ拾五町
南 津知村へ七町
南 本村海岸ニ至ル七町
北 六甲山頂嶺ニ至ル武里半
武庫郡西宮町元標へ東方巷里
菟原郡御影村元標へ西方巷里拾五町

山脈ハ北方ヨリ起リ南方ハ本村ニ躡マリテ断絶ス而テ
東西ノ両方ニ連絡シ東ハ鷲林寺山ノ境ニ至リ西ハ三奈
村ニ連ル則チ六甲山ノ山脈ナリ
但本村疆内ニ隆起スルモノ十三アリト雖モ往時ヨリ
皆チ蒙明ナル名称アリシ事ナク唯タ六甲山ノ山脈ナ
ルヲ以テ是等ヲ総称シテ単ニ六甲山ト名ツク
水脈ハ北方ヨリ来ル二川アリ一ハ西方ニ曲流シテ住吉
川ニ容ル之ヲ黒岩川トシ一ハ本村中央ヲ貫キ南流シテ
海ニ注ク之ヲ芦屋川トス
全地形勢ヲ概別スレハ其北部ハ連山重疊東西ノ両部ハ
土地高低概子田圃タリ最南ハ海ニ面シ中央以北ハ人家

集合シテ楢田形ナル一村ヲ為ス其南方ニ国道第壹等道路横通シ鉄道線路ハ東西ニ貫通シテ汽車往還スル所トス尚ホ最広ナル里道アルヲ以テ陸運ノ便既ニ尽セリト云フヘシ然レトモ海上漕輪ノ便ハ未タ開ケス

其色黒其實美惡混リ砂土燥濕肥瘠半々ナルカ故ニ早稲殊ニ中稻ニ宜シク麦ハ就中小麦及ヒ裸麦ニ最モ適シ桑茶ニ適セス

戸数

本籍 士族二戸 平民二百四拾五戸
寄留 士族〇 平民二戸 貳戸
村社 壹座 三座
社 淨土宗智恵院末派 壹字
寺 院末派 壹字
總計貳百五拾三戸
他出寄留 士族〇 平民二戸 貳戸
本籍男 士族貳口 平民五百拾五口 五百拾七口
女 士族〇 平民五百三拾五口 五百三拾五口

牛

牛 牝二頭 五拾五頭

馬

馬 〇

舟車

蒸氣船 〇
風帆船 〇
日本形船 五拾石以上荷船 壹艘
游船 〇 漁船 九艘 拾艘
總計拾艘
牛車 貳拾九輛
馬車 〇
荷車 大〇 三輛 三輛
人力車 〇 二人乘 三輛 三輛
總計三拾五輛
戸長役場 〇

警察署

警察署 〇
学校 〇
青屋小学校 〇 本村ノ中央字開守ニアリ東西拾間南北拾五間積面百五拾坪生徒 男七拾貳名 女三拾名 總計百貳名明治六年八月十六日創立青屋村及ヒ三条村ニケ村聯合私立タリ

神社

天神社 〇 本村ノ北方字間谷ニアリ年号干支創建不詳ト雖モ明治六年村社ニ列セラレタリ

寺院

安樂寺 阿武 〇 本村ノ中央字古屋敷ニアリ安樂寺大甲山ト号ス淨土宗京都智恵院末派トス往古青屋川ニ洪水起リ堤防破壊シテ全村ノ舍屋ハ一夕ニ変シテ漢野ノ雜ニ遭遇セシ事アリテ為メニ已前ノ歴状ハ殆ント流失シテ知ルニ由ナジ爾後總年問再建ス〔建者名号不詳〕之ヲ中興トス爾來依然衰廢ナシ

墓地

埋葬地 〇 本村ノ南方字辰新田ニアリ反別三畝拾貳歩タリ
埋葬地 〇 本村ノ中央字中ノ内ニアリ反別四畝廿七歩タリ

道路

火葬地 〇 本村ノ中央字中ノ内埋葬地ト全地ニアリ
火葬地 〇 本村ノ南方字辰新田埋葬地ノ内ニアリ
西国街道 佐伊 〇 国道第壹等ニ屬ス本村ノ東方打出村ノ境界字古新田ヨリ本村ヲ經テ西方深江村ノ境字樋ノ口ニ至ル延長六町廿間巾貳間タリ
青屋街道 阿武 〇 里道第壹等ニ屬ス本村ノ東方打出村ノ境界字辰巳ヨリ本村ノ中央ヲ貫通シテ西方津知村ノ境界字傍示ニ至ル延長六町五拾間巾貳間タリ
鐵道線路 〇 本村ノ東方打出村ノ境界字青原ヨリ來リ本村ノ中央ヲ横通シテ西方三条村ノ界ニ達ス長サ六町三拾間

電 線

電信線路○本村ノ東方打出村ノ境界字芦原ヨリ来リ鉄路ニ沿ヒ本村ヲ経テ西方三条村ノ界ニ達ス長サ六町三拾間

耕 地

田有七百七拾八筆 反別四拾九町壹反三歩
地価金四万九百貳拾五四八拾五錢二厘
旧反別三拾七町七反五歩
高三百七拾七石壹升三合

石盛六斗九升

畑有六百九拾六筆 反別五拾五町壹反八畝廿四歩
地価金壹万三千貳百六拾三円四錢六厘

旧反別三拾四町壹反二畝拾九歩

高百三拾六石五升五合

石盛四斗

荒地有三筆 反別九畝廿四歩

地価金六拾三円四拾四錢五厘

旧反別壹畝

高四升

石盛四斗

宅 地

總計壹千四百七拾七筆 反別百四町三反八畝廿一歩
地価金四万五千貳百五拾二円四拾二錢三厘
宅地有貳百貳拾筆 反別九町九反壹畝拾八歩
地価金七千三百廿六円四拾三錢六厘
旧反別三町九反九畝九歩
高貳拾九石壹斗四升五合

石盛七斗三升

山 岳

六甲山久許 ○本村ノ北方ニアリ頂嶺ヨリ四分シ東ハ鷲林寺村ニ屬シ西ハ三条村ニ屬シ北ハ有馬郡湯山町ニ屬シ南ハ本村ニ屬ス高サ五拾五町周回壹万八千七百六拾七間反別六百七拾二町山脉北ハ湯山町ニ連リ東ハ鷲林寺山ニ接シ西ハ三条山ニ連ル樹木生セス禿山或ハ草山ナリ登路二条一ハ本村芦屋谷ヨリ直路ニ上ル里程貳里拾町易ニシテ近シ一ハ此中央ヨリ右ニ折レ滝ケ谷ヲ経テ上ル里程貳里拾八町險ニシテ遠シ深水一条滝ケ谷ヨリ落ルモノ笹瀑トナリテ芦屋川ニ容ル深サ凡ソ壹尺余ヲ過ギス巾三間平常ノ水体ハ急流ニシテ透清ナリ

森 林

笠ヶ塚加佐賀 ○本村ノ東北方字笠ヶ塚ニアリ禁伐東西百六拾七間半南北四百四拾四間反別廿四町七反八畝六歩北ハ六甲山ノ麓ニ接シ南ハ字間谷、津谷、山坂、及ヒ杖東ノ田圃ニ接シ東ハ打出村ノ境ニ至リ西ハ芦屋川ノ堤防ヲ以テ限ル大樹ナシ瘦松生スト雖モ其周圍營ニ貳尺五寸長サ凡ソ三間ニ過キサルモノ而已

城山夜麻

○本村ノ西北方城山ニアリ禁伐東西百七拾三間半南北四百四拾五間反別廿五町七反三畝北ハ六甲山ノ麓ニ接シ南ハ字大僧、法泉寺、北溝ノ畑地及ヒ字瓦器ノ田地ニ接シ東ハ芦屋川ノ堤防ヲ限リ西ハ三条村ニ界ス大樹多シ松樹周圍凡ソ六尺長サ五間タルモノ所々ニアリ其他瘦松叢生ス

河 渠

芦屋川阿志 ○水源ニアリ一ハ三条山ノ溪水ヨリ発シ一ハ本村北部六甲山ノ諸溪澗ヨリ来リ二流字大僧ニ相会ス然シテ本村中央ヲ貫キ南流シテ海ニ容ル延長貳拾町最深三間最浅二尺最広八拾間三尺最狭拾間四尺平時ハ唯々細流ニシテ霖雨ニ忽チ大流ヲ見ル

橋 梁

黒岩川久許 ○本村ノ北方六甲山ノ溪水ヨリ発シ西南方ニ曲流シ三条山ヲ経テ住吉川ニ枝流ス本村内延長百廿五間最広三尺最狭壹尺五寸平時ハ細流ニシテ霖雨ニ急流ヲ見ル

永保橋惠以 ○本村ノ南方芦屋川ニ架ス国道第一等道路ニ屬ス石造ニシテ長サ廿四間巾壹丈タリ

開守橋加伊 ○本村ノ中央芦屋川ニ架ス木造ニシテ長サ九間巾八尺タリ

瓦器橋加波 ○本村ノ北方芦屋川ニ架ス木造ニシテ長サ八間巾八尺タリ

堤 塘

芦屋川東堤阿志 ○芦屋川ノ東辺ニ沿ヒ本村ノ中央字松ノ内ヨリ本村ヲ経テ南方海岸字西新田ニ至ル長サ拾町最高八間二尺最低六尺馬踏式間壹尺堤敷貳拾間ニシテ水門式ケ所アリ〔水門〕及ヒ水量定杭等ハ無之

芦屋川西堤阿志 ○芦屋川ノ西辺ニ沿ヒ本村ノ中央字開守ヨリ本村ヲ経テ南方海岸字樋ノ口ニ至ル長サ貳拾町最高八間最低五尺馬踏二間壹尺堤敷廿間〔水

門及ヒ水量定杭等ハ無之

野○ 津○ 沼○

物池渡原

米中稱カ 老ケ年産出高千六拾三石九斗四升五合
 麥 老ケ年産出高四百五拾六石
 綿 老ケ年産出高老万三千五拾貫目
 素麵 老ケ年製造高老万一千貫目
 諸魚 老ケ年漁取高金八百八拾円
 右ハ過半西官町ニ輸出ス而シテ陸路運輸至便ノ地タリ
 ト雖モ海上漕輸ノ便ハ未タ得タリト云フ能ワス
 雜穀蔬菜草束等ノ類ハ地味不適ニシテ蕃殖セス漸クニ
 シテ菅ニ一村ノ消耗ニ充ルニ足ル而已ト雖モ働モスレ
 ハ他國ノ輸入ヲ抑カサルヲ得ス

租 税

国税 地租金老千五百四拾六円四拾六錢三厘
 船舶税金貳拾五錢
 車税金三拾七円五拾錢

牛馬売買免許税金老円
 鈦山税○
 酒造税○
 醬麴營業税○
 煙草税○
 証券印帛税○
 郵便税○
 訴訟郵帛税○
 会社税○
 度量衡税○
 版權免許料○
 海外旅行券其他免許手数料○

總計金老千五百八拾七円七拾三厘

地方税 地租割金三百拾七円七拾三錢
 戸數割金百八円
 營業税金七拾八拾錢
 雜種税金百四拾二円三十錢
 總計金六百三拾八円八拾三錢
 旧租高五百四拾二石六斗六升七合

【撰津国菟原郡三条村誌】 芦屋市教育委員会編
 ○明治十七年(一八八四)

撰津国 菟原郡 三条村誌

田反別三拾七町七反五步
 石盛六斗九升
 畑反別三拾四町老反廿九步
 石盛四斗
 宅地反別三町九反九畝九步
 石盛七斗三升

總計反別七拾五町八反貳畝三歩
 正租 米三百貳拾五石六斗二勺
 金老千六百七拾四廿二錢九厘

民業 農ヲ業トスルモノ三百六拾五戸
 農商兼業ノモノ貳百五拾戸
 漁業ノモノ老戸
 工作ヲ業トスルモノ拾五戸
 雜業ノモノ百拾戸

芦屋村誌終

汎例 一本誌ハ昨明治拾六年一月布達丁第壹号及ヒ全第六号ニ
 照準シテ調査スルモノナリト雖モ故ラ茲ニ沿革、疆域、
 地質、鉄道、墓地、道路、電線、森林、橋梁、河渠、堤
 塘、及ヒ民業等ノ別項ヲ掲ケ以テ尚キ精密ナル実況ノ考
 抛ラシテ満足タラシム

菟原郡深江組戸長 久保平兵衛謹誌
 明治十七年四月

撰津国 菟原郡

三条村誌

沿革
三条村夜字 ○星霜今ヲ歴ル已ニ五百五拾四年則チ元徳
二年頃五位源吾兵衛ナルモノ、開創ニシテ京都市街
三条ト称ス町名ヲ取テ村号ト為ス〔此由縁伝記ハ本誌
編末ニ附録ス〕其後天正年度ニ至ル迄凡ソ式百四拾二
年間経歴ノ跡跡ハ絶ヘテ徴スルニ由ラシ天正年間本条
庄ニ属シ豊臣氏ノ直隸ニシテ大坂奉行片桐主膳ノ支配
タリ元和元年豊臣氏亡ヒ徳川氏之ヲ戸田氏鉄ニ賜フ寛
永十二年戸田氏鉄濃州ニ転封スル所トナリ青山幸成代
テ領ス后宝永八年桜井忠喬嗣テ領地トナル明和六年徳
川氏此地ヲ収メ其直轄ノ地ト為ス世々大坂奉行ノ管轄
スル所タリ徳川氏ノ大政ヲ奉還スル明治元年尼ヶ崎藩
ヲ置ガル此年二月兵庫裁判所ヲ設ケ之ヲ収ム同年五月
薩藩本県ヲ神戸港ニ置カル同四年全村拳テ之カ管地ニ
属ス同五年本県区画第拾七区ニ属シ全年之ヲ改メテ六
区ト為ス同拾二年一月区画ヲ廢シ更ニ菟原郡役所ヲ住
吉村ニ置キ之カ管地トナリ后十三年二月之ヲ武庫郡西
宮町ニ移置セラル則チ本村ハ現時之カ所轄タリ

幅員
東西百四拾五間
南北九百拾五間
(附註) 東西凡平均百八拾間
積面貳拾貳万四千百七拾五坪
飛地
官有地
第一種 三筆 反別九步
第二種 八筆 反別六町八畝拾七步
第三種 拾壹筆反別四反四畝拾五步
第四種 拾壹筆反別三拾五町三反五畝六步
總計五百七拾五筆反別三拾五町三反五畝六步
(附註) 大平比良 ○本村ノ西北部ヲ位マル山岳タリハ

車場久留 ○車場ノ東南麓ニ方ル山林及ヒ田地タリ
寺ノ内宇智 ○車場ノ南方ニアリ田圃タリ
西畑波多 ○寺ノ内ノ東南方ニアリ田圃タリ
(附註) 山林及ヒ田圃タリ

岡山夜麻 ○網ノ山ノ西南方ニアリ山林及ヒ畑地タリ
(附註) 網ノ山ノ西南方ニアリ山林及ヒ畑地タリ
角田多 ○岡山ノ東南方ニアリ山林タリ
九ノ坪都保 ○角田ノ東隣ニアリ田地タリ
西良手爾斯 ○九ノ坪ノ直南ニアリ田圃タリ
小里登 ○西良手ノ南方ニアリ田地タリ
五反田武陀 ○小里ノ東隣ニアリ田圃タリ
(附註) 網ノ山ノ西南方ニアリ山林及ヒ畑地タリ
塚穴ノ場奈能婆 ○寺ノ内ノ北方ニアリ山及ヒ田圃タリ
子ジコミ許美 ○西畑ノ北方ニアリ山林タリ
会ノ下志多 ○西畑ノ南方ニアリ田圃タリ
松本茂登 ○会ノ下ノ東北ニアリ田圃タリ
南垣内俊宇智 ○本村ノ中央ニアリ人家及ヒ田圃タリ
信時登伎 ○角田ノ北方ニアリ田圃タリ

里程
元標 ○本村ノ中央字南垣内ニアリ
(附註) 元標 ○本村ノ中央字南垣内ニアリ
(附註) 元標 ○本村ノ中央字南垣内ニアリ

地勢
山脉ハ北方ヨリ起リ西走シ本村疆内北部ニ段マルモノ

唯タ一横此ヲ大平山トス

水脉ハ北方ノ山間ヨリ来ル一条アリ芦屋村ノ山界ニ沿
フテ南流シ芦屋川ニ会流ス之ヲ高坐谷川トス

全地形勢ヲ概別スレハ西北部ハ山ヲ負ヒ以東南ハ土地
高低ニシテ概ネ田圃タリ中央ノ東辺ニ人家集合シ鐵道
線路ハ南方ヲ東西ニ貫通ス里道ハ直線ナル二条アリ共
ニ人家ノ中間ニ連続シテ南ハ津知村ニ通シ西ハ森村ニ
達スルヲ以テ陸路運輸ノ便ハ敢テ遺憾トスル所ナシ

地質

其色黒其質美砂土処トシテハ糞穢肥沃ナリ穰稻ニ宜シ
麦類ハ就中裸麥ニ最モ適シ桑茶ニ適セス

戸数

本籍平四拾壹戸
寄留〇

社小式座

寺真宗本願寺宇
寺末派

總計四拾四戸

他出寄留〇

人数

本籍男八拾壹口

女九拾五口

寄留〇

總計百七拾六口

他出寄留〇

牛馬

牛牝〇
牛牝式拾頭式拾頭

馬〇

舟車

郡役所〇

警察署

戸長役場〇

学校

神校〇

神社

八幡宮神社波智麻
支創建不詳

大山神社夜麻〇本村ノ西北方字西畑ニアリ年号干支創
建不詳

寺院

照葉寺志与
（白紙貼）
ス真言宗本願寺ノ末派トス文明三辛卯年二月十四日

墓地

五位源三ナルモノ開基創建ス

埋葬地〇本村ノ北方字会ノ下ニアリ反別式畝歩タリ
（船越西ノ山）

埋葬地〇本村ノ西方字岡山ニアリ反別式畝六歩タリ
（船越西ノ山）

火葬地〇本村ノ北方字会ノ下埋葬地ノ内ニアリ
（船越西ノ山）

火葬地〇本村ノ西方字岡山埋葬地ノ内ニアリ
（船越西ノ山）

道路

津知街道都〇本村及ヒ津知村ノ往還道ニシテ東方字畦
垣内ヨリ津知村ノ境界字十里ニ至ル延長百八拾間巾
六尺タリ

森街道理〇本村及ヒ森村ノ往還道ニシテ東方字南垣内
ヨリ森村ノ境界字岡山ニ至ル延長百四拾間巾四尺
六寸タリ

鐵道

鐵道線路〇本村ノ東方芦屋村ノ境字五反田ヨリ来リ南
方ヲ横通シテ森村ノ界字小寄ニ達ス長サ百八拾間巾

電線

線

耕地

田有三百三拾壹筆 反別拾五町三反壹畝
地価金壹万四千三百五拾三円廿五錢壹厘

旧反別拾貳町九反九畝五歩
高百七拾三石七斗五升二合

石盛壹石三斗五升七合

畑有百八筆 反別貳町壹反三畝六歩
地価金八百九拾九円五拾九錢九厘

旧反別九反二畝貳拾六歩
高八石九升九合

石盛八斗七升壹合

總計四百三拾九筆 反別拾七町四反四畝六歩
地価金壹万五千貳百五拾貳円八拾五錢

宅地三拾六筆 反別壹町貳反九畝拾五歩
地価金九百五拾六円四拾八錢八厘

旧反別四反八畝拾壹歩

住宅

宅地三拾六筆 反別壹町貳反九畝拾五歩
地価金九百五拾六円四拾八錢八厘

旧反別四反八畝拾壹歩

山

石盛巻石三斗

大平山比良字 ○本村ノ北方ニアリ頂嶺ヨリ三分シ北本
条九ヶ村所轄野山ニ属シ東ハ一帯芦屋村ニ属シ西南
ノ二面ハ本村ニ属ス高サ三百八拾間周回六百八拾間
反別拾四町巻反一畝四歩山脈東北ハ芦屋村六甲山ニ
連帯シ西ハ森山ニ連リ南ハ本村ノ田圃ニ接ス樹木七
町以登ハ生セシテ裸山ナリ登路一条字西畑ヨリ上
ル路程拾町溪水一条字榎谷ヨリ発シ曲流シテ高坐谷
川ニ容ル深サ三尺五寸巾三尺ニ過キ平時ノ水体ハ
緩流ニシテ澄清ナリ

森

塚穴ノ場民林津加阿 ○本村ノ北方字塚穴ノ場ニアリ三
等林東南ノ両方ハ字寺ノ内ノ田圃ニ接シ北ハ大平山
ノ南麓ニ接シ西ハ字子ジコミノ山林ニ界ス東西武拾
五間半南北百拾間反別九反五畝巻歩大樹ナシ雜樹叢
生ス
西畑民林多 ○本村ノ西北字西畑ニアリ二等林東南ハ
字会ノ下、網ノ山及ヒ岡山ノ田圃ニ接シ西ハ森村ノ

河

山林ニ連リ北ハ本村字寺ノ内ノ田圃ニ接ス東西四拾
三間南北四拾間反別五反七畝拾巻歩大樹ナシ瘦松生
ス
高坐谷川 許字佐 ○本村ノ北方大平山ノ溪澗ヨリ発シ芦
屋村ノ境界ニ沿フテ南流シ字車場ニ至リテ芦屋川ニ
会流ス本村内延長五町六間最広六間最狭三尺最深五
尺最浅三尺ヲ過キ平時ハ細流ニシテ霖雨ニ忽チ激
流ヲ見ル

池 橋

奥畑池 巻久 ○本村ノ北方大平山ノ内ニアリ東西拾間南
北六間周回三拾武間積面六拾坪本村ノ用水トス田凡
ノ巻久ノ灌漑ニ供ス
新池武 ○奥畑池ノ北方ニアリ東西武拾五間南北七間周
回六拾四間積面百七拾五坪本村ノ用水トス田凡ノ七
反歩ノ灌漑ニ供ス
西畑池 多 ○本村ノ西北字西畑ノ内ニアリ東西三拾

六間南北武拾武間周回百拾六間積面七百九拾武坪本村
ノ用水トス田凡ノ武町歩ノ灌漑ニ供ス
東畑池 多 ○西畑池ノ東方ニアリ東西武間南北三間
半周回拾巻間積面七拾坪本村ノ用水トス田凡ノ武町歩
ノ灌漑ニ供ス

中ノ池 那加 ○本村ノ南方字為ノ前ノ内ニアリ東西巻間
半南北武間周回七間積面三拾坪本村ノ用水トス田凡
ノ六反歩ノ灌漑ニ供ス
西良手池 那加 ○本村ノ南方字西良手ノ内ニアリ東西三
間南北五間周回拾六間積面拾五坪本村ノ用水トス田
凡ノ七反歩ノ灌漑ニ供ス

堤 塘

米 晩稻 巻ケ年産出高三百五拾四石六斗四升
麦 裸麦カ 巻ケ年産出高七拾八石
素麵 巻ケ年製造高巻千貫目
陸路運輸至便ニシテ素麵ハ西宮町ヲ繼テ京阪地方ヘ輸

租

出ス此他蔬菜及ヒ果実ノ如キハ地味不適ニシテ蕃殖セ
ス管ニ一村ノ供給ニスラ足ラサルカ故ニ他國ノ輸入ヲ
仰キ以テ其消耗ニ充ツ

国 稅

- 地租金四百拾巻円九拾六錢七厘
- 釵山稅 ○
- 酒造稅 ○
- 醬麵營業稅 ○
- 煙草稅 ○
- 証券印稅 ○
- 郵便稅 ○
- 訴訟費稅 ○
- 代官免許料 ○
- 船舶稅 ○
- 車稅 ○
- 会社稅 ○
- 牛馬売買免許稅 ○
- 度量衡稅 ○
- 版權免許料 ○

海外旅行券其他免許手数料〇

總計金四百拾壹圓九拾六錢七厘

地方稅

地租割金八拾壹圓五拾六錢九厘

戶數割金拾六円

營業稅金九円

雜種稅〇

總計金百六圓五拾六錢九厘

旧租高百八拾八石壹斗三升九合

田反別拾貳町九反九畝五步

石盛老石三斗三升七合

畑反別九反貳畝廿六步

石盛八斗七升壹合

宅地反別四反八畝拾壹步

石盛老石三斗

總計反別拾四町四反拾二步

正租 米百五拾石五斗壹升壹合二勺

金七百七拾二圓拾二錢三厘

民業

農業ノモノ三拾六戸

旅鶯スルモノ壹戸

農新炭ヲ業トスルモノ壹戸

製造及ヒ力役ヲ業トスルモノ三戸

三条村開創由縁書寫

五位家由緒書

皇都祖家

水無瀬 式部 五位上御藏米

同苗 主計 姉子

同苗 米女 二男神原家繼

同苗 玄香 三男北条家へ仕テ源

從我幼童、武道好父之言、背關東江出北条家ニ仕水無瀬源吾義高

名乘元德二午年高時公靈威我諫言憤落眼前ニ有ント終ニ北条離

散シ諸國浪々身成、當國徘徊之折節我幼年之時父家ニ召仕之永治郎

ト言者ニ出合聲ニ物語シ今此地ヨリ五町西ニ一ツノ小家有是江勝

引シ是則チ永治宅也爰ニ暫ク身止在時永治我尙最早老武止安意永

壽之思ニ進ニ附テ則此地ニ致家造永治住家モ此所へ引移リ田畑開

發農業仕僕父ノ住所皇都三条ヲ村号トシ歲重テ田畑早損亡消ニ附

テ我氏水無瀬父ノ官位五位ト改榮村ノ時ニ至而五位由緒末葉ニ為

知シ書者也

永二癸未年正月二日 三条村祖 五位源吾兵衛義高(花押)

三条村誌終

【撰津国菟原郡津知村誌】 芦屋市教育委員會藏

〇明治十七年(一八八四)

(表紙)

(戸長役場用紙) 罫紙使用)

撰津国 津知村誌

菟原郡

津知村誌

沿 革

津知村七〇創置年月不詳

古時本条庄ニ屬ス天正年中豊臣氏ノ直隸ニシテ大坂奉

行片桐主膳ノ支配タリ元和元年豊臣氏亡ヒ徳川氏之ヲ

戸田氏鉄ニ賜フ寛永十二年戸田氏鉄濃洲ニ転封スル所

トナリ青山幸成代テ領ス后宝永八年桜井忠喬嗣テ領地

トナル明和六年徳川氏此地ヲ収メ其直轄ノ地ト為ス世

々大坂奉行ノ管轄スル所トシ徳川氏ノ大政ヲ奉還スル

明治元年尼ヶ崎藩ヲ置カル此年二月兵庫裁判所ヲ設ケ

之ヲ収ム同年五月廢藩本県ヲ神戸港ニ置カル全四年全

村拳テ之カ管地ニ屬ス同五年本県區画第拾七区ニ屬シ

全年之ヲ改メテ六区ト為ス全拾二年一月區画ヲ廢シ更

ニ菟原郡役所ヲ住吉村ニ置キ之カ管轄トナリ后十三年

一月之ヲ武庫郡西宮町ニ移置セラル則チ本村ハ現時之

カ所轄タリ

疆 域

東ハ芦屋村ノ耕地及ヒ深江村ノ溜池ニ境シ西ハ森村及

ヒ深江村ノ耕地ニ接シ南ハ深江村北ハ森村及ヒ三条村

ノ田圃ニ疆ス

幅 員

東西百七拾五間南北百卅六間周回六百貳拾二間積面貳

万三千八百坪

地種總計

官有地

第一種 老筆反別貳畝拾二步

第二種 三拾七筆五反老畝廿七步

總計三拾八筆反別五反四畝九步

民有地

第一種 二百四拾壹筆反別八町五反七畝廿七步
 第二種 三筆反別壹反四畝拾七步
 總計二百四拾四筆反別八町七反式畝十四步

飛地
 本村ノ南方深江村ノ内三ヶ所ニ散在ス
 其反別合計四反七畝拾四步

字地
 六条夜字 ○本村ノ北方ニアリ田圃タリ
 才道佐草 ○本村ノ西方ニアリ人家及ヒ田圃タリ
 一ノ坪都保 ○才道ノ東隣ニアリ田圃タリ
 新景阿羅 ○本村ノ東南方ニアリ田圃タリ
 保都登登 ○本村ノ東北ニアリ田圃タリ
 字地總計五個
 飛地ニ係ル分
 実柄美賀 ○本村ノ東南方深江村ノ内ニアリ田地タリ
 永井奈賀 ○実柄ノ南方ニアリ田地タリ
 南永井奈賀 ○永井ノ南方ニアリ墓地タリ
 元標 ○本村ノ西北方字六条ニアリ

里程
 元標 ○本村ノ西北方字六条ニアリ

地勢
 水脈ハ北方ヨリ来リ本村ノ中央ヲ画ス一条アリ之レヲ
 津知川トス南流シ深江村ヲ經テ海ニ注ク
 全地形勢ヲ概別スレハ土地平坦山脈ヲ帯ヒス人家ハ中
 央ニ集合シ四方ハ各田圃ニシテ数村ヲ超ヘテ北部ニ聳
 ニル六甲山脈ノ一帯ヲ遙望ス里道第一等道路ハ中央
 シク以北ヲ横通シ陸路運輸便宜ノ地タリ
 其色黒其質砂土肥瘠半々ナリ中稲ニ宜シ麦類ハ裸大共

地質
 其色黒其質砂土肥瘠半々ナリ中稲ニ宜シ麦類ハ裸大共

戸長役場 ○
 警察署 ○
 学校 ○
 神社 ○
 寺院 ○
 墓地 ○
 道路 ○

ニ適シ桑茶ニ適セス

戸数
 本籍民 貳拾戸
 寄留 ○
 社村老座
 寺 ○
 總計貳拾壹戸
 他出寄留 ○

人数
 本籍男 民 五拾七口
 女 民 四拾六口
 小計 百三口
 寄留 ○
 總計 百三口
 他出寄留 ○

牛馬
 牛 牝 八頭
 馬 ○
 總計 八頭

舟車 ○

戸長役場 ○
 警察署 ○
 学校 ○
 神社 ○
 寺院 ○
 墓地 ○
 道路 ○

津知街道土 ○三条村及ヒ深江村ノ往還道ニシテ本村ノ
 北方三条村ノ境字六条ヨリ本村ノ中央ヲ貫通シテ南
 方深江村ノ界字一ノ坪ニ至ル北方字才道ノ北隅ニ於
 テ里道第一等道路ニ会ス延長百三拾六間巾五尺タリ

支道アリ

津知街道土 ○三条村及ヒ深江村ノ往還道ニシテ本村ノ
 北方三条村ノ境字六条ヨリ本村ノ中央ヲ貫通シテ南
 方深江村ノ界字一ノ坪ニ至ル北方字才道ノ北隅ニ於
 テ里道第一等道路ニ会ス延長百三拾六間巾五尺タリ

鐵道
電線
耕地

田有百八筆反別七町老反五畝十二步
地価金五千九百廿七円九錢二厘
旧反別八町三反三畝拾四步
高百四石三斗三升三合
石盛老石老斗七升五合
畑有式筆反別七畝拾式步
地価金三拾老四廿老錢五厘
旧反別七畝拾四步
高九斗老升七合
石盛老石五升
宅地有式拾四筆反別九反三畝三歩
地価金六百八拾七円六拾二錢九厘
旧反別老反歩
高老石三斗
石盛老石三斗
山岳
森林

日吉宮林○本村ノ中央ニアリ日吉神社ノ境外官林ニシテ東西拾四間八分南北拾四間三分反別四畝步東南北ノ三方六字ノ坪ノ耕地ニ接シ西ハ津知川ノ東堤ヲ以テ界ス周回八尺長凡ソ八間ノ瘦松生ス

河渠
津知川○本村ノ北ニ方ル六甲山脈ノ溪澗ヨリ起リ三条村ノ田圃ニ灌漑シ残水相会シテ本村ニ來ル而シテ人家ノ東辺ニ沿フテ南流シ深江村ヲ經テ海ニ注ク本村內延長百卅六間巾四尺平時ハ細流ニシテ霖雨ニ涸流ヲ見ル

橋梁
津知橋○本村ノ中央勘シク以北津知川ニ架ス里道第一等ニ屬ス石造ニシテ長七尺巾式間アリ

池沼
新池○本村ノ東方字保都ニアリ東西拾六間南北拾四間周回六拾間積面式百貳拾四坪本村ノ用水トス田凡ソ四町歩ノ灌漑ニ供ス

渡津
津野
野津
津野

堤塘

津知川東堤比賀志○津知川ニ沿ヒ本村ノ中央字一ノ坪及ヒ六条ノ境角ヨリ起リ南方深江村ノ界ニ至ル本村內延長六拾八間高サ四尺馬踏四尺堤敷五尺アリ〔水門及ヒ水量定杭等ハ無之〕
津知川西堤波爾斯○津知川ニ沿ヒ本村ノ中央字六条及ヒ才道ノ境角ヨリ起リ南方深江村ノ界ニ至ル〔以下上ニ同シ〕

物産

米中種カ 老ケ年産出高八拾四石
麦裸及ヒ大 老ケ年産出高拾石
此他産出スルモノアリト雖モ地味不適ニシテ蕃殖セズ他國ノ輸入ヲ抑キ以テ一村ノ消耗ニ充ツ
陸路運輸便宜ナリ

民業

農業ノモノ拾九戸 農商兼業ノモノ老戸

租稅

地租金六拾貳円九拾四錢一厘
鉸山稅○酒造稅○醬鹽營業稅○煙草稅○

証券印帶稅○郵便稅○訴訟費帶稅○
代官免許料○船舶稅○車稅○會社稅○
牛馬売買免許稅○度量衡稅○版權免許料○
海外旅行券其他免許手数料○
總計金六拾二円九拾四錢老厘

地方稅
地租割金四拾二円拾三錢貳厘
戶數割金八円
營業稅金老円
雜種稅○
總計金 五拾老四拾三錢貳厘
旧租高百六石五斗五升

田 反別八町三反三畝拾四步
石盛老石老斗七升五合
畑 反別七畝拾四步
石盛老石五升
宅地 反別老反歩
石盛老石三斗

總計反別八町五反廿八步
正租 米八拾五石貳斗四升
地租金四百三拾七円廿八錢老厘
津知村誌終

2 明治廿二年精道村議事録

【明治廿二年六月十日十一日議事録】

芦屋市役所藏
○明治廿二年(一八九九)

(表紙)
明治廿二年六月十日十一日地方税ニ
係ル營業者負担額ノ件并議事
細則ノ件

(朱筆)
議事録
精道村役場

議事録

本村精道村ニ係ル地方税營業割ノ等級ヲ比較シ負担額ヲ定
ムル為メ明治廿二年六月十日精道小学校内ニ於テ開設ス依
テ議員抽籤ヲ以テ席次ヲ定メ同日午前九時各員着席開會
ス

議員

- 一番 塚本善次郎
- 二番 天野小平治
- 三番 中島利兵衛
- 四番 青木四郎兵衛

- 五番 猿丸吉左エ門
- 六番 細谷佐太郎
- 七番 山村伊左エ門
- 八番 井床利平治
- 九番 助野庄兵衛
- 十番 中田重介
- 十一番 天王寺谷種次郎
- 番外 野田勘三郎

議長山村着席シテ云本日ハ精道村營業ニ係ル地方税ノ負担
額ノ件ヲ議スル為メ開會セリ依テ議ニ配賦スル議案ヲ以テ
各員宜シク討議アラン事ヲ企望ス

(貼紙)

猶議事細則ノ草按アリ此レヲ本会ノ先ニ御討議アリタ
シ放テ各員ニ諮詢ス

然レバ議事細則ヲ議スルヲ決ス

九番助野云本会ニ先テ一言致クシ

議長許諾ス

九番助野云當精道校ヲ役場ニ借受ケ又ハ本会等ヲ當校ニ開
クニ付テハ本校ハ元深江村ニ關係アル事ナレバ其辺ノ掛

会ノ手順ハ如何相成リ居ルヤ

議長云其儀ニ付深江村旧総代トハ口頭ヲ以テ談シ置キタル

事ナレトモ猶本日中書面ヲ以テ難答ヲ取ル事トセン

九番助野云當役場ノ板垣其他ノ工事ニ着手アリ其費用ハ最

早各議員ハ協議済ナルヤ又ハ村長ノ見込ナルヤ

議長云右ハ何分至急ヲ要スル事故村長ノ見込ヲ以テ着手セ

リ依テ本日ハ各員ニ謀ルノ精神ナリ

九番助野云頃日當役場ニ於テ議會ノ節議決セシ外ノ人員ア

ルヲ見受ケタリ右ハ村長ノ見込ナルヤ將テ議員協議ノ上

ナルヤ兎ニ角村費ニ係ル事ナレバ一応御尋申シ置カン

議長云今天野菊三郎ナルモノハ此頃引継キノ事務ノ都合ニ

ヨリ不取敢出頭セシマテニテ何レ本会ノ終リニ於テ協議

ニ及ヒ度程ナリ何分ニモ只今ノ吏員ニテハ取継キ難キ見

込ナレバ此辺御了知アリタシ

九番助野云左スレバ原按ニ操込ミ議セラル事トナレバ至當

ナラン依テ忠告旁意見ヲ述ヘタリ

六番細谷云此頃ハ農家ハ非常ノ多忙ノトキナリ今九番ハ難

問カ質問カ永々陳述アリタレトモナルベク速決ノ事ニ致

シタシ

九番助野云今六番ハ本員ノ忠告旁意見ヲ陳弁セシテ難問ト

カ質問トカト本員ヲ指シテ述ヘラレタリ今本員ノ陳述ヲ

難問ト認メラレテハ甚不本意ナリ依テ一言ス

六番細谷云本員ハ難問トカ質問トカ云フナリ難問ト断言シ

タルニ非ラズ九番ハカノ字ハ疑ヒノ言タルヲ了知アリタ

シ

議長云議長ニ於テモ六番ハ難問ト断言セラレタルニ非ラズ

認メタリ

議長云是ヨリ議事細則ヲ議セシ 書記ニ朗誦ヲ命ス 書記

通読ス

議長云各員審議アルヘシ

六番細谷云原按ヲ賛成ス 一番塚本同 七番山村同 十番

中田同

九番助野云全体ニ付テ質問アリテ后チ意見ヲ述フルハ会則

ノ順序ナリ議長ニ於テ其辺ハ如何ナル考ヘナルヤ

議長云此ノ細則ノ全体ヲ置キ否ノ件ニ付質問アレバ述ヘラ

レタシト云ノ意ナレバ六番一言致シ置ク

二番塚本云此ノ細則ニ於テ質問スベキ疑ヒモナク又意見モ

ナケレバ原按ノ通りニ賛成セシ也

十番中田云今ハ一次会ナリ總体ヲ置クヤ否ヲ決スル事ト思

考セリ

議長云此細則ノ全体ヲ置クコトニ同意ノモノ起立ヲ
惣起立ス

依テ置クニ決ス

議長云全体ニ付質疑ハナキヤ

九番助野云全体ニ於テ質問ナシ猶逐条ニ於テ意見ヲ述ベシ

議長云質問モナキ様ナリ附テハ二次三次会ト順序ニ議スヘ

キヤ又便宜ニ依リ二次会ヲ以テ直ニ確定議トスヘキヤ將

テ全体ヲ通シテ議スヘキヤ各員ニ詢フ

九番助野云議事細則ハ會議ニ於テ必要ナレバ全体ヲ通議シ

テ確定議トセバ恐ラクハ議員ニ於テ粗薄ノ聞ヘアラン依

テ逐条ヲ審議シテ而シテ確議トシテハ如何

七番山村云九番説ハ尤ナレトモ細則モ好ク行届キ居様ナリ

又簡便ノ為メ総体ヲ通議シテ確定議トスルモ差支ヘハナ

カラン 一番 四番賛成ス 此際一番 六番 九番 互

ニ応答アリ

議長云最早議論ヲ尽キク今七番説ニハ続々賛成アレハ先ツ

七番ヲ起立ニ取ラン即チ七番説ニ同意ハ起立ヲ

起立スル七名ナリ 七番説ニ決ス

九番助野云第六条ニ一日前トアレトモ町村制ニモアル通り

三日前ト終整アリタシナントナレバ各員ノ中ニモ商業ノ

スル事ナレバ其トキニ於テ徵集及支消法ヲ議シテ可然ナ

ラン

七番山村云九番説ノ穩当ナル事ヲ歌演シテ九番説ニ賛成セ

リ

一番 二番賛成セリ

議長云九番説ニ付説明モアリ夫々賛成モアレバ九番説ニ同

意ハ起立ヲ 起立スル七名 多数ニ付可決ス

六番細谷云末条ノ二円以下トアルヲ三十銭以上二円以下ト

終整アリタシ其所謂ハ一銭モ二銭モ過怠金ナリコ、ニ二

円トアルハ最上ヲ云フモノナレバ其最下ノ程限モアリテ

然ルヘキナリ

九番助野云六番説ハ至極尤ナリ然ルニ三十銭以上トアレト

モ十銭以上トシテハ如何ナントナレバ金ノ多少ニ抱ハラ

ズ巳ニ過怠金ヲ出ストナレバ名譽ニ於テ幾分ノ關係アレ

バ最下ヲ十銭トシタシニテモ宜ト云ノ意ナリ

七番 一番賛成ス

議長云九番説ニ賛成者アリ依テ此説ニ同意ハ起立ヲ 起立

スル七名 九番説ニ可決ス

議長此ニ於テ確定セシ旨ヲ述ヘ時正午十二時ナリ依テ喫飯

ノ休憩ヲ報シ(以下消去)

大モアレバ二日前ニテハ或ハ不在等ニテ出頭ニ差支ヘル

事アルベシ今三日間ノ猶予アレバ恐クハ其患ヘナカラン

四番八番六番一番二番五番三番ノ賛アリ

議長云九番説ニハ既ニ七名ノ賛成アリ即過半数ナレバ最早

三日前ト終整スル事ニ決ス

九番助野云十八条ニ一事件ニ付一議論ヲ演説セシトキハ変

スルヲ得ストアリコレハ余リ堅キニ過クル様ニ思ハル依

テ但シ書キヲ要シタシ其但書ニハ(但シ前説ヲ取消シ更

ニ演説スルハ此限ニアラズ)トセシ

七番 一番 三番 六番 十一番 八番ノ賛成アリ

議長云九番ノ但書ヲ加フル説ニハ追々賛成アリ既ニ多数ナ

レバ但書ヲ加ヘル事ニ決ス

一番塚本云此ノ細則ヲ可決スル以上ハ各員ニ於テモ過怠等

ノ事ハナキ事ハ信スルモ万々一コレアルトキハ三日間ニ

徵集シ其金員ハ役場費ニ支消シテハ如何ン

九番助野云過怠金ヲ徵集スル場合ニ於テハ會議ノ議決ヲ要

スル事可然歟

議長許諾ス

午後一時開会ス出席同上

議長云此ヨリ營業者等役員額ノ件ヲ議セン 書記ランテ原

按ヲ朗読セシム

九番助野云此ノ百四人ト云ハ何クノ調ナルヤ

番外答此レハ四月一日ハ前年度ヨリ營業統キノモナリ

九番問四月以後ノ營業者ハ如何

番外答四月以後ノ營業者ハ其營業出願スル際見込ヲ以テ等

級ヲ定直ニ納税セシムルナリ

九番云一等ト二等トノ差ハ十七銭ナリ其區別ノ精神ハ如何

番外答何モ深キ子細アルニアラズ配賦方ノ都合ニ依リテ斯

ク相成リタル也

六番問フ此ノ等級ハ上リ高ナルヤ又ハ見掛ヲ以テ区分スル

ヤ

番外答ア全体ハ昨年ノ等級ヲ比較シテ原按ヲ組シモノナリ

六番問等級ノ差違ノ異同甚ク平均ナラズ其他見込ナキヤ

番外答フ何分等級ノ差異付ケ難キニヨリ重ニ昨年ノ儘ヲ用

キシナリ

九番云營業上ハ盛衰甚シキモノナリ各營業人ヲ召集シテ顧

問トナンテ等級ヲ定メタル然ルヘキナリ其辺ハ如何

番外答其辺ハ甚ク不行届ナリ各員ニ於テ宜ク御討議終整アリタシ

九番云外番ハ一円八十先ノ都合ニ依リ一等ト二等トノ差ハ漸ク十七先トシ又六番ノ答ニ只昨年ノ比較ヲ以テストアリ全体商業ニハ盛衰ノアルモノナレバ是亦不都合ナリ夫レヲ監スル村長ニ於テハ如何ナル御考ヘナリヤ

議長云番外ハ如何ナル精神ニテ答ヘシカハ知ラズ何分ニモ合併創始ノ事故ニ旧ニ依リテ等級ヲ定メテレバ各員宜御討議アリタシ

右ノ質問アリ了ル
九番云一次会ニ於テハ原按ヲ賛成ス 六番 十番 八番 貳番賛成ス

議長起立ニ取決ス 起立スル十名 原按ニ可決ス
議長云二次三次会ヲ通シテハ如何

一番塚本云各等ヲ議スルニ当テ誰レハ何等又誰何ト金額ニモ異同ヲ生シ人ノ等級ニモ異同ヲ生シテハ其結算ノ金高ニ困難ナレバ金高ヲ据ヘ置キ人ノ等級ヲ上ケ下ケシテハ如何各員ニ謀ルト

六番云一番ノ説ハ一応尤ナレトモ兎角苦情ハ金額ノ件ナリコレニ不権衡ガアレバ徴収ニ困難ナリ

議長云商業ノ五等迄ハ小会議ノ成跡モアレバ六等ヨリ以下ヲ討議アリタシ

夫レ等級毎ニ審議ノ上決定シ漸次末等ニ至ル 時刻既七時ニ至レリ

議長云此長日勉勵シテ時間モ余程伸長セシ事ナレバ本日今此ニ等級ノミヲ末等迄議決セシ事ナレバ其負担額ハ明日ニ譲リ閉会スル事セン為ニ各位ノ勉勵ノ勞ヲ謝スト

同十一日午前第九時開会

議員何レモ昨日ノ例ニ依リ着席ス

- 一番 塚本善次郎
- 二番 天野小平治
- 三番 中島利右エ門
- 四番 青木四郎兵衛
- 五番 藤丸吉左エ門
- 六番 細谷佐太郎
- 七番 山村伊左エ門
- 八番 井床利平治
- 九番 助野庄兵衛
- 十番 中田重介

七番云先ツ第一ニ人ノ等級ヲ定メ第二其ノ等級ノ差異ヲ定メ然シテ一人当リ尅円ヨリ何程ト云フ比較ヲ定メテハ宜シガラン 六番 一番 十番 十一番 賛成

議長云七番説ニハ統々賛成者アリ依テ七番説ニ同意ハ起立ヲ 起立スル十名 七番説ニ決ス
三番中島云尅等ノ中島金蔵ハ目下一先ノ營業モセズ何モ平モナキ姿ナル一等ニアルハ如何

六番細谷中島金蔵ノ現今ノ始末逐一ニ説明セリ
九番助野云中島金蔵ハ当時止業ノ姿ナレバ一等ニ置クモノニアラズ然ル何等ハ諸君ノ動議ヲ俟ツ 其他種々異議アリ

十番中田云此ヨリ小会議ヲ開キ小会議ニ於テ協議致シタシ諸君ニ謀リアラン事ヲ乞フ
九番 七番 三番同意ヲ表ス

議長云今十番ヨリ小会議ニ付シテ議セン事ヲ述ベテレタリ夫レニ賛成賛アリ各員ノ終ニ多数ニ依リ小会ヲ開ク事ニ決ス
時午后三時ナリ 休憩ノ上小会議ヲ開ク

午後五時開会

- 十一番 天王寺谷種次郎
- 番外 野田勘三郎

議長云昨日ニ統キ開会ス昨日ニ統キ毎級ニ負担額ヲ配当按ヲ書記ニ朗読セシム各位宜御討議アリタシ

九番助野云原按ニ至極妥當セリ原按ヲ賛成ス
七番 六番 三番 五番同意ス 等級比較負担割表ニ別ニアリ

議長追々賛成モアレトモ為念ニ取決セン原按ニ同意ハ起立八名起立ス 原按ニ決ス
議長云コレニテ商業ノ部ハ全ク結了セリコレヨリ工業ノ部ヲ議セン

書記原按ヲ朗読ス

工業雜種共商ノ例ニヨリ議決ス
議長云本会モ昨日ヨリ引続キ諸君段々ノ御勉勵ニテ速ニ議決セシハ議長ニ於テモ満足スル所ナリト云々述ヘ終テ閉会ス

其等級割ハ別冊ニアリ

明治廿二年六月十一日

議長 山村忠左エ門
議員

細谷佐太郎 ⑩
助野庄兵衛 ⑩
塚本善次郎 ⑩

【明治廿二年六月廿三—六日議事録】 同前

(表紙)

明治廿二年六月廿三日ヨリ廿六日迄地方
税ニ係ル戸別割負担額等級比較ノ件

議事録

精道村役場

(朱筆)

明治廿二年六月廿三日精道校ニ於テ精道村地方税ニ係ル戸
別割等級比較ノ件ニ付精道村会ヲ開設シ同日午前第十時開
会ス各議員抽籤ヲ以テ席次ヲ定ム

議員

- 一 番 細谷佐太郎 貳 番 助野庄兵衛
- 三 番 中島利右エ門 四 番 塚本善次郎
- 五 番 井床利平治 六 番 青木四郎兵衛
- 七 番 山村伊左エ門 八 番 (空) 白)
- 九 番 (空) 白) 拾 番 天野小平治
- 拾一番 猿丸吉左エ門 拾二番 中田重介

着席ス拾名

議長山村云本会ハ精道村地方税ニ係ル戸別割等級賦課ノ件
ニ付開設セリ諸君宜シク審議アラシム書記原按ヲ
朗読スヘシ

書記原按ヲ朗読ス

議長云諸君ニ一言セン此レ迄テハ各村共幾分ノ免税者アリ
シカ今般ノ原按ニハ悉皆ヲ挙テ起按セシナレトモ各員ノ
意見ニ依リ極貧者ニ限り免税スルトセハ又多少賦課ニ影
響セン依テ先ツ此議ヲ諸君ニ諮ル

二 番助野云極貧者ナレバ免税スルモ可ナリ先ツ免除スルモ
ノ、見込ヲ承知致シタシ

四 番塚本云免除スルモノハ何レ末等ナラン依テ其免除者ハ
議長ノ手元ニ於テ調ベ置レテ先ツ一等ヨリ等級比較ヲ議

シ然シテ賦課法ヲ議スルトシ其トキ免除者ヲ議スルトセ
ハ議事上ニ於テ便宜ナラン

二 番助野云此ノ戸別割ハ一戸ニ付何程ナルヤ

番外中田云コレハ一戸ニ付貳拾弍拾弍リトナル

二 番助野云此ノ戸数ハ何ソノ調ナルヤ

番外中田答此レハ昨年七月一日調ノ六百十三戸ヲ以テ徵稅
合書ノ金額ヲ現在ノ五百九十四戸ヲ以テ原按ヲ組シナリ

議長云本按ヲ組シ後昨日郡役所収稅係ヨリ本年ヨリハ現在
戸數調ハ四月一日ニナリシニ付今般ノ地方稅戸別割モ本
年四月一日調ニ更正セラル、旨被達タルニ付即五百九拾
四戸ノ現在ヲ進達シ置ケリ依テ本按モ更正スル見込ナリ
尤モ一戸ニ付稅率ハ貳拾弍弍ナリ

議長又云此ノ原按ハ今外番ノ述シ如ナレトモ議長ガ曩ニ
述シ免除者及減戸ノ都合モアレハ別段各員ニ於テ異見モナ
ケレバ先キニ等級比較ノミヲ議シ次ニ賦課法ヲ議スル四
番ノ説モアレバ此レニ同意ハ起立ヲ 忽起立ス 依テ此
レニ決ス

議長一代会ハ原按ニ議決ス此ノトキ十二時卅分ナリ 議
長休憩喫飯ヲ報ス

後一時三十分開会ス 出席議員午前ニ同シ

議長云午前ニ統キ第二次会ヲ開ク事ヲ述フ 第壹等ヨリ遂
次ニ議決シ第七等ニ至ル此時午後五時トナル

議長云本日ハ此レ迄ニイタシ統テ明日モ例刻ヨリ各員ノ出
席煩シ討議アラシム事ヲ企望ス今日閉会スト報告ス

同廿四日午前第拾時開会 出席議員

- 一 番 細谷佐太郎 貳 番 助野庄兵衛
- 三 番 中島利右エ門 四 番 塚本善次郎

- 五 番 井床利平治 六 番 青木四郎兵衛
- 七 番 山村伊左エ門 八 番 (空) 白)
- 九 番 天野小平治 十 番 天野小平治
- 十一 番 猿丸吉左エ門 十二 番 中田重介

着席拾名

議長云昨日ニ統キ原按ノ第八等ヨリ審議アルベシ而シテ本
級ニハ議長ノ身上ニ關係アレバ助役中田氏ニ議長ヲ讓ル
ト 十二番中田議長席ニ代ル

議長中田云不肖ナカラ成規ニ依リ暫ク議長ニ代レリ各員宜
シク御諒知ノ上御討議アルベシ

而シテ八等ヲ議決ス

議長中田退ク 議長山村復席

議長第九等ヨリ十等ヲ議決ス十二時ニ付議長休憩喫飯ヲ
報ス

午後一時開会 出席議員午前ニ同シ

議長云午前ニ統キ十一等ヨリ討議アルヘシ

十一等ヨリ逐次議決シ十三等ニ至ル午後五時ニ至ル

此ニ於テ議長閉会ヲ報ス各員退場ス

同廿五日午前第九時昨日ニ統キ開会ス 出席議員

- 一 番 細谷佐太郎 貳 番 助野庄兵衛

三番 中島利右エ門 四番 塚本善次郎
 五番 井床利平治 六番 青木四郎兵衛
 七番 山村伊左エ門 八番 (空) 白
 九番 欠天王寺谷種次郎 十番 天野小平治
 十一番 猿丸吉左エ門 十二番 中田重介
 着席ス九名
 議長云昨日ニ統キ十四等ヨリ審議アルベシ
 第十四等ヨリ逐次議決シ第貳拾貳等ニ至ル十二時三十分
 ナリ

議長休憩午飯スヲ報ス
 后午一時三十分開会 議員十一番猿丸吉左エ門病氣ニ付欠
 席ス出席八名
 議長云午前ニ於テ第二次会ハ議決セリ依テ此ヨリ第三次会
 ナ開キ確定議トス各員宜御討議アルヘシ
 老等ヨリ順次廿二等ニ至ルマテ全ク議決シ第三次会ノ確
 定議ヲ終ヘリ時ニ午后五時ナリ
 議長云連日各員ノ勉勵ニ依リ議事モ意外ニ捗取り議長ニ於
 テモ満足ノ至リナリ亦明日モ例刻ヨリ各員ノ出席ヲ煩ハ
 シ賦課法ノ審議アラン事ヲ乞フ依テ本日此レテ閉会スト
 同廿六日

后前第十時開会 出席員
 老番 細谷佐太郎 貳番 助野庄兵衛
 三番 中島利右エ門 四番 塚本善次郎
 五番 井床利平治 六番 青木四郎兵衛
 七番 山村伊左エ門 八番 (空) 白
 九番 天王寺谷種次郎 十番 天野小平次
 十一番 猿丸吉左エ門 十二番 中田重介
 着席議員八名
 議長云過日段々連日ノ討議ニヨリ等級比較ノ分ハ既ニ確定
 議モ終ヘタリ依テコレヨリ負担額賦課法ノ件ヲ討議アル
 ベシ兼テ陳述セシ負担額ヲ減少セシニ付今其金額ヲ以テ
 賦課ノ等差ヲ起按セリ即チ別記ノ通りニ付宜シク御諒知
 アルベシ
 二番助野云原按ノ賦課等差比較ハ至極適當セリ依テ原按通
 リヲ贊成ス 一番七番四番十番同意ヲ表ス
 議長云原按賛成ノミニテ他ニ動議モナキ様ナレトモ念ノ為
 メ起立ヲ取ラシ原按ニ同意ハ起立ヲ 惣起立ス 依テ原
 按通りニ決ス
 議長云コレニテ本按ハ全ク結了セリ各員連日ノ疲勞ヲ謝ス
 ル旨ヲ述ベテ本会閉場ヲ告グ

明治廿二年六月廿六日

議長 山村忠左エ門 ㊦
 議員 細谷佐太郎 ㊦
 助野庄兵衛 ㊦
 塚本善次郎 ㊦

【明治廿二年八月議事録】 阿前

(表紙)

明治廿二年八月

議事録

(朱筆)

精道村役場

明治廿二年八月三日午前第八時十分精道村精道学校ニ於テ
 精道村役場費収支予算ヲ議決スル為メ村会ヲ開設ス 出席
 議員
 老番 青木四郎兵衛 貳番 山村伊左エ門
 三番 井床利平次 四番 天野小平治
 五番 細谷佐太郎 六番 猿丸吉左エ門
 八番 欠天王寺谷種次郎 九番 助野庄兵衛

十番 塚本善次郎 十一番 中田重介

議長山村云本日精道村役場費ノ件決議ノ為ニ召集ヲ要シ候
 開議ニ付
 二付過日配賦候原按ニ依リ式ニ随ヒ御討議アルベシ猶本
 按ニ先ツテ諸君ニ御詢リ可申キ次アリ余ノ義ニアラス過
 日来ヨリ国道改修ノ件ヲ提出シテ御協議ヲ煩サントス依
 テ本按ヲ先ツ敷又ハ後トニ廻スヘキ敷一応諸君ニ諮問セ
 ントス
 一番青木云其件ニ付テハ最早予算按ハ出来アリヤ
 議長云未タシ地所家屋買上ノ調ヘハ過日細谷佐山村伊ノ兩
 子ニ托シ置ケリ
 五番細谷云地所及家屋買上ノ調未済ニ付御即答ニ及ヒ難シ
 併シ本員ノ考ヘニハ先ツ糞ニ弥改修ノ着手スル敷又ハ延
 期ノ願ニテモスル敷此ニ点カ村民ニ於テ如何トスル敷ノ
 点ヲ決定スルガ肝要ト考ヘラル
 二番山村云五番ト同シク未タ取調済マズ殊ニ元芦屋村ノ如
 キハ一家屋ノ一部分ヲ断切スル処マ、アレバ逆モ本員一
 人ニテハ覺束ナク今而三人ト共議ニ上ニ致シ度ト考フ
 九番助野云本員ハ五番説トハ少々ノ違アリ本員ハ先キニ費
 額ノ点ヲ取調ヘタ方都合ヨロシカラシトナレバ其費
 額ヨリテハ暫延期シキ民力ヲ養フトカ又ハ費額ニヨリテ

村民ノ力ニ堪ユルトキハ着手ニ尽力スルト歟ノ見込ミモアレバナリ

議長云本題ヲ御諮問ニ及ビシナレトモ原按ハ至急ヲ要スル義ニ付又休憩ノ際ニテ御協議ニ及フ事トシテ是レヨリ本按ノ第一次会ニ及フベシ諸君了セラレヨ 直ニ書記原按朗読ヲ命ス

書記起テ原按ヲ朗読ス

五番細谷本会ハ成規ノ通一二三次会ト議スル事ナル歟

議長云更ニ各員ニ詢ル便宜ノ為メ二次会ヲ決定トシテハ如何

二番山村伊云一二次回ヲ兼テノ便アルヲ望ム

九番助野云成規ニ因リ一二次回ヲ經三次回ヲ確定議ト致サ

十番塚本同意五番細谷同意

取決ス 起立スル八名 九番説ニ決ス

九番助野云先ニ三ヶ月分ノ徵集アリ今十ヶ月トアレバ本年

八十三ヶ月トナル理由ノ説明乞フ

議長云先ニハ三ヶ月分ノ徵集アルハ仮額ニシテ其徵集額ハ

前月ニ最早支払尽キナレバ此起草ニ當テ其筋へ問合ニ及

ニ其筋ニテ何分改革創始ノ際殊ニ多額ノ支消ノ事ナレバ

本按ニハ實際十ヶ月ト見込テ斯クハ起按セシモノナリ

九番助野云前三ヶ月分ノ収支決算ハ引継ト思フ果シテ然ルヲハ其決算書ヲ一覽致シタシ

議長云引継ハ受シナレトモ元深江村外三ヶ村ヲ各村ニ部分

仕訳スルニ付元戸長ニ照会中ナリ

二番山村伊云其決算報告ハ元深江村外三ヶ村ノ収支決算書

ヲ請求イタシイン素ヨリ分離不致方却テ明瞭ナリ安シト

思フ左ナキトキハ持退ノ部分ニ於テモ一覽致シ度キ点モ

生スル事アラシ

議長云本会開会中ニ元戸長ト談シ正當書ヲ提出シテ各員ノ

閱覽ニ供セン

此ヨリ九番其他各員ヨリ質問ヲ經テ一次回ヲ了ス十二時屋

飯休憩

午后一時三十分開会

議長云午前ニ於テ第一次会ヲ了ヘタレバ此レヨリ第二次ニ

シテ議案ニ審議アラシ事ヲ企望ス

二番山村云此項ハ最早前会ニ決議済ノ事ナレハ原按ノ通り

賛成ス十番九番七番六番共同同意

五番細谷云使丁老人ニ付四円ト訂正スベシ

議長云五番ノ動議アレトモ賛成者ナク式番ノ原按賛成ニハ

統々同意ノ声アリ念ノ為原按賛成ノモノ起立スベシ 九

名原按ニ決ス

議長云同第二項ヲ遂次ニ討議アルベシ

二番山村伊云先ツ日当一日何程一里路費何程ト云テ決議ア

リ而シテ本項ノ目ヲ議スル事セン

九番助野云一里六錢一泊即チ日当三拾貳トシ別ニ弁当料ハ

給セス 四番同意ス

五番細谷云一里五錢一泊ハ即チ日当三拾貳弁当料拾貳トセ

ン

十番塚本云路費弁当料ハ実費トセン

二番山村伊云各役場ノ里程ヲ調ヘ置キタシ又云九番及五番

ノ説モアレバ路費弁当料ノ額ヲ定メン事ヲ先ニ陳ヘシナ

リ依テ議長ニ於テ見込ヲ提出アリタシ左スレバソレヲ原

按ト見テ猶各員ト意見ヲ述ヘシ

議長云路費日当ノ件ニ付各位ニ御意見モアリ又請求モアレ

バ爰ニ揭示ス

名譽職員弁償額

旅行車馬賃一里ニ付

同宿泊料 一泊ニ付

吏員旅費

旅行車馬賃一里毎ニ

同那役所管内一泊毎ニ

夜勤賄料

老度ニ付

先ツ右ヲ以テ原按ヲ御討議アルベシ

老番青木云一里六錢弁当平均ノ四錢迄

七番中島云名譽職ト雇人員ト區別シテ名譽ハ日当五十錢雇

ハ三十錢即原按ヲ可トス 二番六番十番共ニ同意 起立

四名

九番助野云名譽職ハ四十錢雇三十錢 起立四名

議長名譽職四十錢雇三十錢ヲ可トス依テ九番ノ説ニ決ス

五番細谷云夜勤賄料ハ五錢トアレトモ日中勤務ノ上引続キ

十二時迄モ勤ムルトセハ十錢ハ支給セサルヲ得ス

十番塚本原按ヲ賛成ス 一九四七番共ニ同意取決五名 起

立多数ニ依原按ニ決ス

議長云路費日当ノ額モ決定セリ即旅費ノ目ヲ議セラレヨ

九番助野云拾五円トアルヲ九円六拾貳トセンソレハ老里以

内往復ヲ吏員出張スル十ヶ月八十度ノ積算ナリ 五番同

意四番同意 起立スル悉皆九番説ニ可決ス

五番細谷云貳百五円八拾參錢村長及助役云々ハ原按ニ賛成

九番老番式番共ニ同意 惣起立 九番説ニ決ス

九番助野云五拾四円雇人夫ノ目ハ全廢トセン果シ入用ノト
キ備用支弁ノ道アリ
十番塚本云雇人夫ハ必用ナリ式拾貳円五拾貳トシ十五位ノ
人夫十五人トセン 七番二番老番六番共同
五番細谷此ノ目ハ使ノ用ヲ足セハ済ムモノナレバ十位ノ
人夫十人トシテ月々一円ト見テ拾円トセン 九番四番共
ニ同意
議長五番説ニ同意ハ起立四名少数拾番説ニ同意ハ起立五名
多数ニヨリ十番説ニ決ス
七円五拾貳 筆墨料
五番細谷云雇人ニ付九位トシ十月五拾貳セシ 九番
同説敷演シテ同意ヲ表ス式番十番七番四番共同 取決
起立八名多数ニ付五番説ニ決ス
七円五拾貳 夜勤弁当料
五番細谷云此レハ全ク臨時ナレバ先ツ老円ヲ置陸統賛成ア
リ起立悉皆五番説ニ決ス
時後午五時ニ至ル議長閉会ヲ報シ各員退去ス
明治廿二年八月四日午前八時四拾分ヨリ昨日ニ続キ開会出
席員左ノ如シ

一青木四郎兵衛 二山村伊左エ門 三井床利平次
四天野小平治 五細谷佐太郎 六猿丸吉左エ門
七中島利右エ門 八天王寺谷種次郎 九助野庄兵衛
十欠塚本善次郎 十一中田重介
右着席定ル
議長云昨日ニ続キ遂次御討議アルベシ即第三款
金三円 仮役場借用料ノ目ナリ
五番細谷云原按ヲ賛成ス 二番 九番 一 四番共ニ同
意 議長取決ス 忽起立依テ原按ニ決ス
拾四円 官報及神戸又新日報云々
五番細谷又新日報ノ二部ハ不用ニ属スル様ナレトモ公布式
トアル事ナレバ此儘ニシテ官報ハ先ツ是レ迄通り見合置
キ依テ拾四円トアルヲ九円ト修正アリタシ 四番六番九
番共同
議長取決ス 忽起立依テ五番説ニ決ス
老田五十貳 火鉢買入費
九番助野云説明ニ三箇トアレトモ粗末ノ火鉢(即廿五位)
ニシテ数ヲ多クシテ六個位ニ買入レ置ク事ニ致シタシ
議長云成程九番説ノ通り数ノ多キ方可カラン為念取決ス
起立悉皆依テ説明ノ三箇ヲ六個トスル事ニ決ス

三円拾貳 傘及提燈云々

九番助野云此ノ提燈手丸ナリ精道村ノ高張老対ヲ備置キタ
シ依テ三円十位トアル今九拾貳ヲ加ヘ四円トシテ高張ヲ
新調スル事トセン 一 六番七番共同 議長取決ス
忽起立 依九番説ニ決ス
六円 判木調製費

九番助野云是レ迄ノ経験ニ依ル往々規則等改正アリテ折角
ノ判木モ不用ニ属スル事多シ依テ美濃判紙ノ判木ハ廢活
判師ニ時々命スル事トシ其他村長以下及役場印等ハ原
通リニシテ金額ヲ貳円五拾貳ト修正シタシ 五番一 二番一
番共ニ同意 議長取決スル 総起立ス 九番説ニ決ス
五円 時斗買入費

議長云此ノ時斗ハ既ニ元打出村總代ヨリ借受役場ニ使用セ
リ此レヲ買入レ度キ見込ナレバ元打出村總代ト共議ノ上
入札法ヲ以テ成リ共定メタキ見込ナリ各員別ニ異議ナシ
依テ現物ヲ調査シ評価ヲ入ル、事決ス其高札貳円九拾三
位ナリ依テ其高札ニ決ス
四円八拾貳 雜品買入費

九番云原按ヲ賛成 一 二番 六番 七番 五番共ニ同意 議長
陸統賛アリ他ニ異議ナケレバ原按ニ決ス

五円 宿直夜具代

議長云此レモ前項ノ時計ト同様ニ趣キヲ述ス依テ又入札ス
三円五十位ヲ高札トス 其高札ニ依リ買ヒ求ル事ニ決ス

第四項

第四項ハ更ニ異議ナク原按ヲ賛成ノミニ付議長決ス 但シ
便所物置場ノ目ニ役場窓切下ケ費共ト記入ル事

第五項

百三拾円廿七位 消耗費
九番云特ニ意見ヲ述ヘタシハ此ノ五円六拾七位美濃野云
々四拾円筆紙及状袋云々ノ二目ヲ合併シ度キノ点ナリ附
テハ先月ハ新村開庁ノ創始ナレバ定メシ入費モ多カルヘ
キニ付一応取調ヘアリタシ

議長云フ先月分ハ四円九十九位トナルナリ

九番云半紙野ノ如キハ八分其他ハ四分ト見テ積ルトキハ二
拾五円九拾六位トナルヲ三拾円ト訂正シタシ 五番 七
番 二番共同 議長取決ス総起立ス依テ九番説ニ決ス
八円 領収書及伝令用紙買入費
原按通り可決ス

拾五円 郵便印紙及証券

九番助野云此レハ送受藉等ニテ重ニ印紙ヲ要スル事ナラン
以后ハ其本人ヨリ取立ツル事トセン

二番山村伊云原按ノ十分ノ一トシテ捲田五十疔置キ余ハ
九番説ニ同意ナリ

議長云九番ハ以米人民ニ係ル分ハ人民ヨリ印紙代ヲ取り此
目ニハ二番ノ捲田五十疔置クト云ニ同意ハ起立ヲ 九
名 依テ捲田五十疔ニ決ス

貳四四拾疔 一条購求費
五番細谷 原按ニ賛成 九番 六番 一番 二番共同
議長取決ス 総起立 原按ニ決ス
拾五円 炭買入費

九番云平均六俵トアレトモコレヲ五俵ト見テ拾貳四五拾疔
ト改メタシ 五番七番一番二番共同
議長取決ス 総起立 九番説ニ決ス
八円 蠟燭及石油費

九番助野云蠟燭疔ニ付廿疔見テ五斤油捲ケ月式升ト見
テ捲田ニ付捲田廿五疔程リ三円五十疔ト修正セシ
議長取決ス 総起立 依テ九番説ニ決ス
四円 印肉費

五番細谷朱肉二円墨肉ニ捲田ト見テ三円ト修正セシ 一番
七番六番九番共同
議長取決ス 総起立 五番説ニ決ス

第二款ヨリ御討議アルベシ
九番助野云此貳拾八円八拾疔実費弁償額ニ於テハ起按以後
ニ過不足ヲ生スル事ナキヤ

議長云實際ニ於テ不足ヲ生セリ会日ノ増加スルト前会ノ不
足ヲ生セリ其レヲ合スレバ三拾捲田五拾七疔五厘トナル
九番助野云左スレハ三拾捲田五十七疔五厘ト修正アリタシ
統賛成アリ

議長取決ス 総起立依テ三拾捲田五十七疔五厘ニ決ス
拾貳四六拾疔 書記料
九番助野云拾貳四六拾疔書記料トアリコレハ吏員ノ義務ニ
テ勉強アリタシ實際此書記料ヲ給スルニ及ハズ今マ四円
ヲ置キ此レヲ議長ノ見込ヲ以テ書記吏員ニ給与セラル、
事ニイタシタシ 五番同意

十番塚本云ソコニヘタツテコサル書記ハ役場吏員ナレバ別
ニ日当給スルニハ及ハズ筆工ノ如キハ其実際ニシテ然ラ
ン

議長云九番説ニハ賛成者モアレハ先ツ九番説ヲ取決ス 起
立六名 多数ニヨリ九番説ニ決ス

五番云拾四四拾疔議案^(云)ヲ全廢シ五円四拾疔備付費原按
通り据置又六円ノ消費費ヲ全廢シ貳四四十疔ノ雇人夫ヲ捲

三四 雜費
五番細谷云原按通り賛成 一番二番共同
九番助野云各議員ニ上等ノ麻裏草履リヲ捲足宛与テ置ケハ
却テ便利ナラン

議長云五番ノ原按ヲ賛成ニハ同意アレトモ他意見ヲ聞ス為
念取決セシ 総起立原按ニ決ス
拾五円 宿直弁当料

五番細谷云一ヶ月捲田ト見テ拾四ニ修正アリタシ 九番七
番番同意
議長取決ス 総起立 依テ五番説ニ決ス
議長最早十二時ナリ本日此レニ閉会セシ 依委員退場

明治廿二年八月五日(第三次日)午前第八時四拾分開会
出席員左ニ
一青木四郎兵エ 二山村伊左エ門 三久井床利平次
四欠天野小平治 五細谷佐太郎 六猿丸吉左エ門
七中島利右エ門 八欠天王寺谷種次郎 九助野庄兵衛
十塚本善次郎 十一中田重介
着席定マル

議長云大暑之節連日ノ御出頭ノ段慰勞シ而シテ昨日ニ統キ

四ト修正アリタシ 九番同意
十番塚本云六円ノ消費費ヲ四円トセシ
貳番山村消費費ヲ一円トシ書記料ヲ四円トシ雇人夫ヲ一円
トシテ原按ノ簡目ハ備ヘ置カン議長云五番説ニハ同意者
モアレ先ツ五番説ヲ取決ス 起立六名依テ五番説ニ決ス

第三款 土木費
十番塚本云土木費ノ六円ハ国道及下街道ノ修繕ノミナレハ
此外ニ臨時予備トシテ三拾四ヲ置ク事トセン九番八十番
ニ同意ニテ此三拾四ハ流用支弁外ニシテ置カン 七番六
番二番共ニ同意

議長取決ス 起立五名 多数ニ依リ十番説ニ決ス

第四款 衛生費
貳拾四 医師手当費
九番助野云貳拾四アルヲ拾四ト修正アリタシ
十番同意

五番八円ト修正アリタシ 貳番七番十一番同意 起立七名
五番説ニ決ス

六円廿五疔 痘苗買入
九番云苗管三十五本ト見四円三拾七疔五厘トセン 五番
十番 十一番 一番

議長取決 起立七名 多数ニ依リ九番説ニ決ス
予防薬買入費 貳拾円

九番助野云此目臨時ノ事ナレバ此十分ノ一ヲ備置キテ其兆候アルトキハ直ニ臨時会ヲ開ク事ニセン五番二番十番八番十一番共ニ同意 議長取決ス 起立六名 多数ニ依テ
貳円ト決ス

三円七拾五銭 雜費
九番助野云此レモ壹円五十銭トシテ種痘者ヲ召喚スル使丁ト種痘証ニ充ン 五番同意 十番同意

獸医手当費
議長云右ハ此レ迄元打出テ三円五十銭元芦屋四円ヲ給与セリ新村後ハ何程ヲ支給スル各位ノ意見ヲ詢フ
一番青木云 四円トシテハ如何 二番同意
九番助野云 五円

五番細谷云 三円ニテ他ノ例ヲ考フル然ルベシ 七番十番十一番同意
議長取決ス 起立七名 五番説ニ決ス
議長云其賦課法ニ於テ意見ナキヤ
一番青木 一般ノ賦課法ノ見込ナリ
貳番山村給料及予防薬ハ牛頭数ヨリ取ルハ不都合ナリ

テ原按ニ決ス
明治廿二年八月六日(第四次)午前第八時四拾分開会
出席員
一 青木四郎兵衛 貳 山村伊左エ門
三 番井床利平次 四 天野小平治
五 細谷佐太郎 六 猿丸吉左エ門
七 中島利右エ門 八 天王寺谷種次郎
九 助野庄兵衛 十 塚本善次郎
十一 中田重介 席次定マル
議長云昨日ニ続キ第七款ヨリ審議ヲ企望ス
第七款 拾七円八拾五銭 勸業費
九円〇五銭 養蚕伝習生費
十番塚本原按ノ通り賛成 九番一番同意
九番助野八円八拾五銭村内勸業会費ハ此ノ金額ハ全ク賤シテ更ニ広ク有志ヲ募リ年ニ二度位ハ必ス開会スル事ニシテ費用ハ予ラシメ定メ置ク事ハ止メ七款ニ拾七円八拾五ツアルヲ九円五ツトセシ
五番細谷原按ヲ賛成シテ云勸業会ハ必ス開会セサルベカラズ頃日私立勸業会モアレバ三人位ハ必ス該会ニ出席シテ

十一番中田牛ノ頭数ニ賦課スル方可然ナリ如此費額ヲ一般ニ賦課スル例ハ他郡ニ未ダ聞サル所ナリト云々

五番細谷十一番説敷演シテ賛成
十一番中田云獸医ヲ要スルハ自分ノ飼養スル牛馬ニ對シ要スル事ナレバ給料ノ如キ薬価ノ如キ各自ニ弁スルハ勿論ニシテ我子ノ病氣ニ聘セシ薬礼ヲ隣ニ賦課スルカ如シ一般ニ賦課スルノ理由ヲ見ス又牛馬ヲ持ツ程ノ人カ小民一般ノ厄介ニナル事ナカラン歟

二番山村決シテ小民ニ厄介ニ成ルニハ非ラス既ニ等級制ノアルアリ 二番説ニ十番七番九番一番ノ同意アリ 議長取決ス 起立六名 依テ一般ニ賦課スル事ニ決ス
壹円七拾五銭 獸病予防費
原按ノ通り決ス

第五款 救助費
五円
五番云貳円ニ修正アリタン
九番助野云原按通り賛成ス 十番一番二番七番同意 議長起立ヲ命ス 六名多数ニ依リ九番ノ原按賛成ニ決ス
六款 八円 警備費
五番細谷 原按ヲ賛成ス 九番十番七番六番一番同意 依

其景況ヲ村内ノ勸業会ニ依フル事トセハ彼是ノ費用ニ充テレバ八円八拾五銭ハ据置キ即十月三月ヲ期シテ開会スル事トセン
十番 七番 一番 二番 九番共ニ同意ヲ表ス 議長取決ス 總起立 依テ原按ニ決ス
第八款
十番塚本云此原按之浦役場費ノ目ナレ何分沿海ノ事ナレバ浦役場トシテ五円ヲ置キ度シ 七番一番同意 議長十番ノ動議ハ賛成者モアレバ取決スヘシ同意者ノ起立ヲ命ス 七名 十番説ニ決ス
第九款 両郡聯合費
原按通り決ス
第拾款 廿四 予備費
第拾一款 拾一円四拾八五五銭
廿二年度前三ヶ月分不足
右兩款共原按ニ決ス
議長云二次会ハ此レテ了ヘタリ直ニ此レヨリ三次会確定議ニ及ブベシ
第三次会ニ於テハ異議ナシ
議長云甲号ハコレニテ結了セリ此ヨリ乙号賦課法ニ及ヘシ

九番助野云此レハ地価下戸別トハ七三ノ割ナルヤ

議長云大概其見込ナリ

九番助野云原按ヲ賛成ス 五番二番同意

議長云各員異議ナケレバ原按ニ確定セントス為念起立 総

起立 原按ニ決ス

議長云戸別等級表ハ別紙ニ就キ御了知アリタシ

議長又云漁業採藻税収入案ニ就テ審議アルベシ

満場異議ナシ 議長云原按ニ決ス

議長云本会ハ此レニテ全ク結了セリ炎暑ノ折柄各員連日御

会同ヲ煩シモ非常ノ御奮励ニテ斯ク抄リ閉場ノ場合

ニ及ヘリ議長ニ於テモ満足ノ至リナリト閉場之旨述べ各

員各退場ス

明治廿二年八月六日

議長

山村忠左エ門 ㊦

議員

細谷佐太郎 ㊦

助野庄兵衛 ㊦

塚本善二郎 ㊦

あ と が き

このたびわが芦屋市史全四巻が完成し、その刊行を見るに至ったことは喜びにたえない。

思うに昭和二十六年十月二十七日、当時まだ敗戦後の復興成らず、諸事不自由の中にかかわらず阪神各市に先がけて市史編集の計画を立て、斯界の権威であられる魚澄博士をはじめ、武藤・有坂・末中の諸先生に委嘱し、市史編さんを依頼した。爾来六カ年の年月を経過し、史料の蒐集に幾多の困難を感じつつも関係者一同の努力により、昭和二十八年三月に市史年表、同三十年三月史料編第一、同三十一年十一月市史本編、さらに引続き同三十二年三月最終巻として史料編第二の刊行を見、ここに私共が強く念願してきた「学問的根拠の上に立つ郷土史」の完成を告げた次第であって、いささか市民並びに関係各位の御期待にこたえることができたのを喜ぶものである。

今や事業完成を告げるにあたって何をおいても上記四先生の犠牲的な御尽力に対し、深甚の感謝を捧げずにはいられない。と同時に本市史中地誌の部面において特に稲見先生のお手を煩わしたことに對しても併せて感謝申し上げる次第である。

なお事業の完成については広く関係者諸氏の一致協力のあったこともさることながら、本事業において特に貴重な各種の史料を御提供いただいた方々の御好意に対して厚く御礼を申し述べたい。

この四部からなるわが芦屋市史が、単に芦屋の郷土史の完成ということに止まらず、現時におけるわが国の地方史研究の機運を一段と促進するものであることを固く信じて疑わないものであるが、これと同時に近

代都市として発展しつつあるわが芦屋の市政並びに市民教育振興の上に、或は市民各自の生活設計の上にも必ずや寄与するものがあることを深く信じて結びとしたい。

昭和三十三年三月

兵庫県芦屋市教育委員会

芦屋市史 史料編第二〔非売品〕

昭和三十三年三月三十日発行

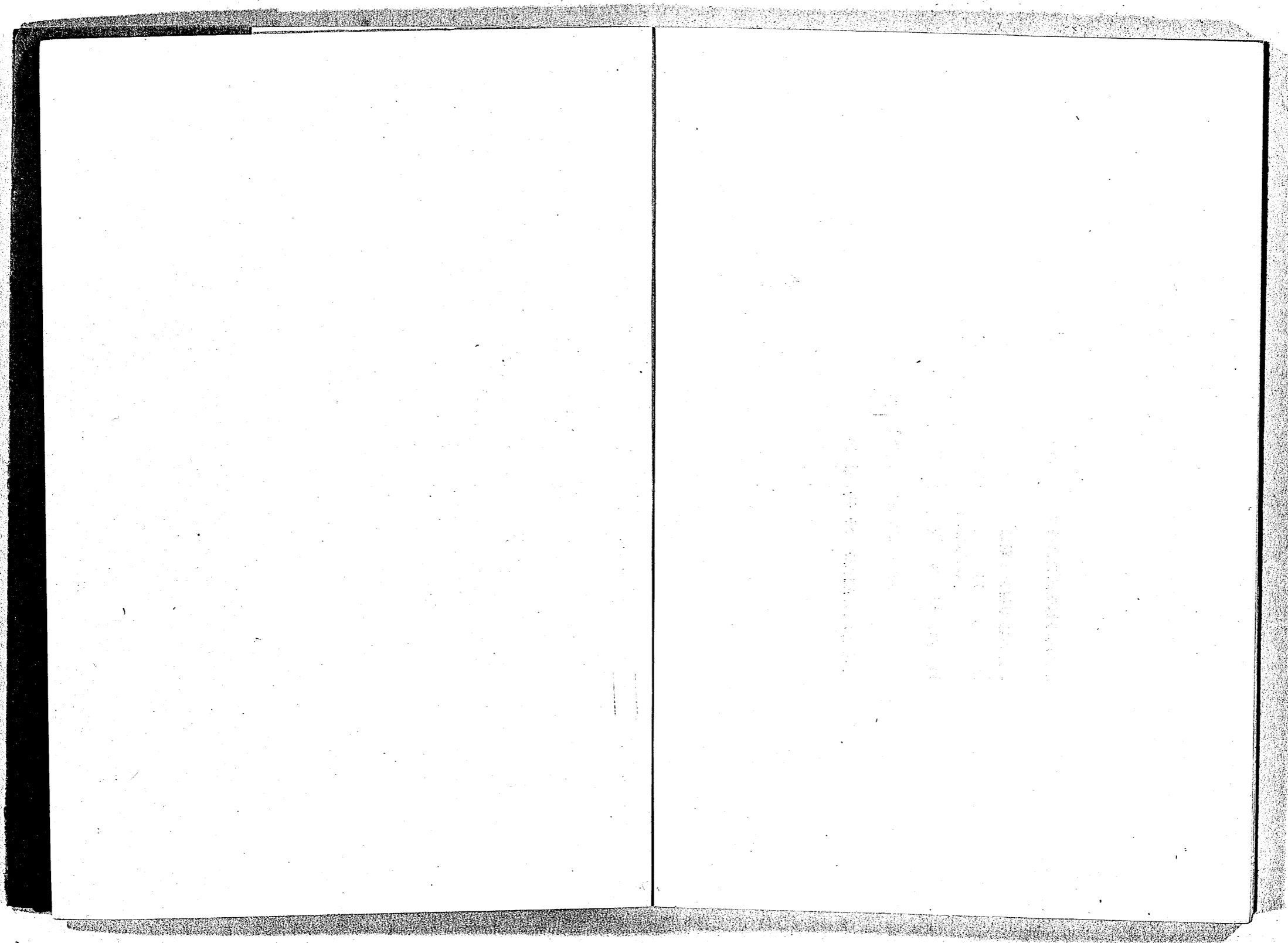
編集者 魚 澄 惣 五 郎

芦屋市教育長

発行者 三 枝 秀 行

印刷所 岩岡書籍印刷株式会社

発行所 兵庫県芦屋市教育委員会



課報公聽